

編集・発行：福島県いわき農林事務所農業振興普及部
 農業振興課 (0246) 24-6160 地域農業推進課 24-6162
 経営支援課 24-6161
 FAX (0246) 24-6196
 E-mail shinkouhukyu.af07@pref.fukushima.lg.jp



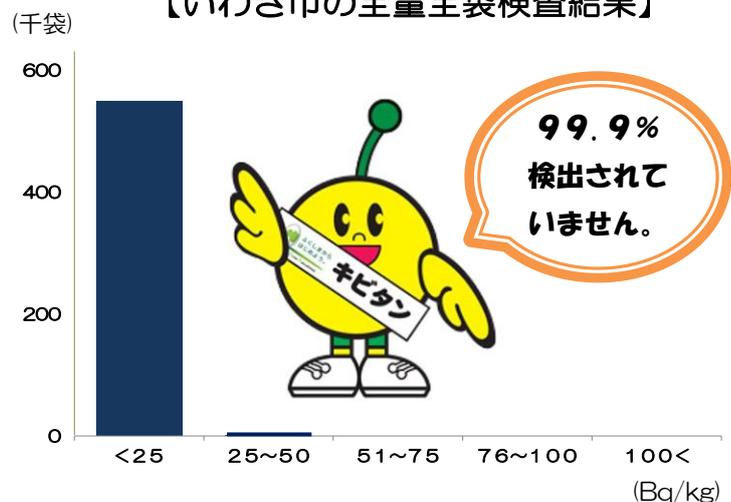
謹賀新年

平成27年産のいわき米づくりのポイント

今年度で3年目を迎えた米の全量全袋検査は10,609,452袋の検査が終了し、12月16日現在、放射性セシウム濃度が基準値(100Bq/kg)を超えたものはありません。なお、25~50Bq/kgの割合は0.02%と前年(0.04%)より減少しました。

平成27年度も安全な米の生産に向けて、以下の放射性物質吸収抑制対策の確実な実施をお願い致します。

【いわき市の全量全袋検査結果】



	測定下限値未満 (<25)	25~50 Bq/kg	51~75 Bq/kg	76~100 Bq/kg	計
検査点数	548,602	128	0	0	548,730
割合(%)	99.98	0.02	0	0	100

【放射性物質吸収抑制対策】

- ① 「カリ成分の基肥上乘せ施用」
 土壌中のカリウムは、農作物の放射性セシウム吸収を抑制する働きがあります。
塩化カリを基肥に施用して、生育初期からカリウム濃度を高めましょう。
- ② 「濁り水をほ場に入れない」
 大雨や洪水が発生した時は、土砂・濁水・ゴミが水田に流入しないように、清流になってから入水しましょう。
- ③ 「倒伏させない」
 放射性セシウムは土に吸着されているので、籾に土が付着すると玄米が汚染される可能性があります。中干し等で株元を固め、倒伏を防止しましょう。
- ④ 「収穫・乾燥・調製時・出荷作業時の交差汚染防止」
 籾・玄米に土・ほこりが混入しないよう籾摺機・グレーダー等の農機具は使用前に念入りに清掃しましょう。また、米袋の中に土、ほこり、籾殻、ぬか・ぬか玉、虫の死骸等が混入しないよう注意しましょう。県は、籾米を籾摺機等の内部で循環させる「とも洗い」方式を推奨しています。
 (地域農業推進課 河村)

県オリジナル品種「天のつぶ」の品質向上ポイント

「天のつぶ」は、栽培しやすく、玄米品質が良好な良食味品種として本県が育成し、平成22年より県の奨励品種になっています。稈長は「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」より短く倒れにくく、出穂期は「ひとめぼれ」より2日程度遅く、「コシヒカリ」より5日程度早い品種です。また、食味は「コシヒカリ」と同等の結果が出ています。（表1）

奨励品種となって4年が経過し、栽培上の注意点が明らかになってきました。

「天のつぶ」は、玄米が大きいため、登熟期間中に割れ糶（図1）が発生しやすい傾向がみられます。そのため、斑点米カメムシ類がその隙間から吸汁し、斑点米の発生につながりやすく、等級落ちの原因となります。「天のつぶ」の品質向上に向け、以下の斑点米カメムシ類の防除対策を実施しましょう。

【対策】

- ① 穂肥は出穂前25～20日前に行い、十分な糶の大きさを確保することにより、割れ糶の発生を抑える
- ② 水田内外のイネ科雑草はカメムシの生息場所となるので、雑草の出穂前に草刈りを行う
- ③ 薬剤防除は、乳熟期（出穂期後7～10日後）とその1週間後の2回散布を徹底する

表1 食味評価値（平成25年度）

	近赤外線分析計（サタケ社）			味度メーター
	評価値	タンパク質（%）	水分（%）	味度値
天のつぶ	80	6.4	15.0	74.5
コシヒカリ	88	5.7	15.2	74.3

斑点米カメムシ類の中には、体長1cmに満たないアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ（図2）があり、近年発生が増加傾向にあります。ほ場の巡回だけでは発見が難しいので、確実に斑点米カメムシ類対策を行いましょう。

また、良品質米生産のためには、土づくりにより生育の後半まで根の活力が強く、登熟が良い水稻にすることが大切です。そのためには、たい肥や土壌改良資材の施用により、良好な土壌環境を整えることが重要です。また、たい肥や土壌改良資材の使用は環境保全型農業にも繋がります。良品質かつ環境に優しい米生産に向けて、たい肥等を積極的に活用しましょう。（地域農業推進課 渡邊）



図1 割れ糶

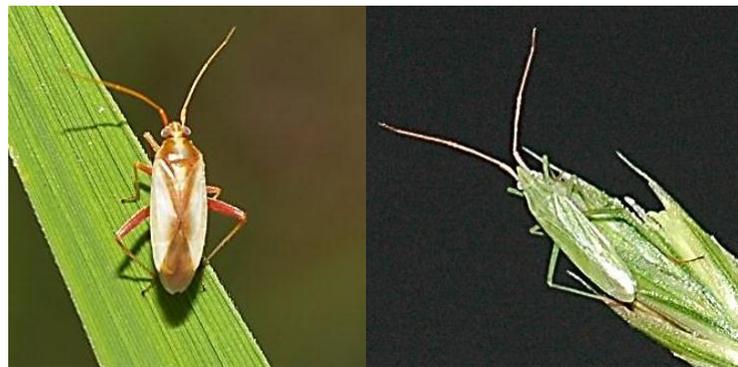


図2 左：アカスジカスミカメ
右：アカヒゲホソミドリカスミカメ
（出展：農業総合センター）

農薬の新しい評価法導入に伴う適正使用について

～農薬を使用する皆様へ～

農薬の使用に当たっては、**最新の情報に従って使用する**ようご注意願います。

1. 新しい評価法（短期暴露評価（急性参照用量（ARfD）※）が導入されます。
2. 農薬の残留基準値の変更に伴い、登録内容が変更（適用作物の削除や使用方法の制限）となる薬剤が出てきます。
3. 随時、登録が変更されますが、在庫品を含め、変更後（予定）の使用方法で使用しないと、食品衛生法違反（残留基準値超過）となる恐れがあります。

農薬登録制度変更の概要

- （これまで） **長期毒性**から推定される一日摂取許容量（ADI）に基づき、農作物・農薬成分ごとに残留基準値を設定
- （これから） 上記ADIに加え、急性参照用量（ARfD）を用いた**短期毒性**の評価を行い、**両者を比較して厳しい推定値に基づき残留基準値を設定**

※ 急性参照用量（ARfD）とは

その農薬が最も残留しやすい条件で、特定の農産物を一度（24時間）に多量に消費した場合でも、健康に悪影響が生じないと考えられる量

●変更となる農薬例（平成26年11月25日現在）

成分名	商品名【例】	変更内容【抜粋】
アセフェート	オルトラン、ジェイエース	剤型により異なる。ミニトマト削除、多品目で縮小
フルバリネート	マブリック	トマト削除
フェナリモル	ルピケン	トマト削除
NAC	ミクロデナポン	ぶどう、はくさい削除
カルボスルファン	ガゼット、アドバンテージ	きゅうり、なす、ねぎ等削除
ベンフラカルブ	オンコル	きゅうり、なす、ねぎ他、多品目で削除

（経営支援課 安達）

季節の鉢花を展示しています！



アルストロメリア

シクラメン

いわき花き鉢物研究会は、一般市民に鉢花を飾るすばらしさと、地元で鉢花が栽培されていることを知ってもらうため、いわき市役所と県いわき合同庁舎内に会員が生産した鉢花を展示しています。

今年は、約2週間ごとに品目を交換することで様々な旬の鉢花を楽しんでもらっています。

市役所への展示の際は、清水市長に直接手渡しして鉢物のPRも実施しました。

（経営支援課 山口）

いわき地域特定家畜伝染病防疫演習を開催しました

平成26年11月10日（月）いわき市南部アリーナにおいて、市役所ほか関係団体及び関係機関職員87名が参加し、管内農場における発生を想定した初動防疫演習を行いました。

法定伝染病である「高病原性鳥インフルエンザ」は、依然アジア周辺諸国で発生しており、既に国内の野鳥からも本病ウイルスが確認されています。

家さん飼養農家の皆様には、飼養衛生管理基準の再確認、畜舎に出入りする際の手指及び靴の消毒、衣服の交換、農場に出入りする車両の消毒等により、発生予防の徹底をお願いします。

（農業振興課 高村）



防疫作業員による捕鳥訓練の様子

攻めの農業実践緊急対策事業について

本事業は、低コスト・高収益な産地体制への転換を支援するため、機械利用の効率化や高収益作物への転換を支援する事業です。基幹的農作業従事（担い手）1名と機械作業を集約する（非担い手）4名以上で取り組むことができます。

【事業概要】

① 効率的機械利用体系構築事業（水田作業の効率化への支援）

担い手への機械作業集約にともない必要となる高性能機械等のリース、既存機械の再利用、廃棄を支援します。なお、高性能機械導入には利用下限面積があります。

② 高収益品目等導入支援事業（中山間地域等での高収益作物等の導入支援）

野菜・花き・果樹などの高収益作物を導入する場合の農業機械・設備のリース、パイプハウスなど簡易施設の整備、永年作物の苗木購入などを支援します。

本事業は平成27年度まで実施しています。助成対象機械・機具や申請の具体的な要件など事業の詳細は、いわき地域農業再生協議会（市、JA）、または、いわき農林事務所農業振興普及部にご相談ください。

（地域農業推進課 木田）



米づくり
の作業
を集約



基幹的農作業従事者（1名）に米づくりを集約

集約する（4名以上）で高収益作物（野菜・花き・果樹）を導入